大阪市立桃山病院「殉職者慰霊碑」

レポートなどで紹介したが、大阪市立桃山病院の跡地を訪ねて「殉職者慰霊碑」に手を合わせた。碑文を見たが、ほとんど読みとれなかった。あとから『桃山病院 100 年史』に慰霊碑に関わる記述を見つけたので、抜粋して紹介したい。

昭和 13 年 3 月 19 日、当院玄関前において殉職者慰霊碑の除幕式が行われた。昭和 12 年 5 月の、当院創立 50 周年記念式典とともに、殉職者慰霊祭が挙行されたのを機に慰霊碑建設の計画が進み、10 カ月後のその日、遺族を招いて除幕式を行い、故人の冥福を祈った。慰霊碑建立までの当院の院内感染による殉職は 34 名、火傷事故による殉職 1 名、計 35 名である。内わけは院長 1、医員 2、臨時医員 2、看護婦 18、臨時看護婦 1、養成所生徒 4、その他 6 人であった。当院の殉職者は一般市民が思いも及ばぬ激務と危険のなかで倒れた人ひとであって、熊谷院長は悲痛の思いを碑文にあらわした。

碑文は「今茲昭和 12 年 5 月 7 日、本院創立 50 周年記念式ヲ擧クルニ當リ本院殉職者慰霊祭ヲ行ヒ、以テ其ノ功勞ヲ追頌シ、謹ミテ冥福ヲ祈レリ。‥‥崇高ナル精神ハ後世ノ亀鑑トシテ永ク景仰スヘキナリ。及テ茲ニ豊碑ヲ本院ノ前庭ニ建テ、長ヘニ偉績ヲ顕彰シ感恩ノ忱を捧ケ、恭シク在天ノ英霊ヲ祀るル所ナリ。」という 500 字に及ぶものである。

碑面は、黒御影石縦 78cm、横 120cm、厚さ 32cm で、表面に「殉職者慰霊碑」、裏面に碑文が刻まれた。殉職者慰霊碑が建立された翌昭和 14 年は、市内で 1 万 8925 人の伝染病患者が発生、うち当院へは 1 万 7215 人が入院、1 日在院患者数最高は 1897 人。この数字は当院創立以来最高であるのみならず、戦時体制のなかで医員や事務職員の応召が増え、その補充や激増する入院患者の対応に大混乱を呈した。

入院患者がピークに達していた 8 月中旬、2 人の看護婦が発熱、採血検査の結果腸チフスであることが判明した。そしてこれに続いて看護婦と看護婦養成所の生徒が次々に発熱、9 月中旬までに計 38 名の腸チフス患者が発生、防疫治療看護に全力をあげたが、うち 13 名が殉職した。

この碑文には熊谷謙三郎・桃山病院長の名前が記されている。大山勝男『「大大阪」時代を築いた男　評伝・関一』公人の友社、2016 年に次のように書かれていた。関の最後をみとった主治医の熊谷謙三郎（市立桃山病院長）は、意識不明の間は殆どうわ言のみでありましたが、そのうわ言は「全部役所関係予算関係のことに限られていました」（『故関市長を偲ぶ』）と語っている。

（2020 年 5 月 22 日）